

ひだまり通信

第 16 号

令和 6 年 2 月



011-676-3131

ひだまりエッセイ

「ケアマネ」「ケアマネジャー」と呼ばれるお仕事をしています。正式名称は「介護支援専門員」という資格です。介護を必要とする方が、できる限り自立した生活を送ることができるよう、適切な介護保険サービスを整整し、ケアプランを作成するお仕事です。

介護保険のサービス以外にも、生活にかかわること、障害福祉、医療費や病院のこと、確定申告、お引越、金銭管理や地域のことなど、色々なご相談にかかわらせていただくので、日々学びが多いなあ、自分自身にも本場に役立つなあ実感しています。

お工作上、楽しい嬉しい場面ばかりではなく、辛い、悲しい、

怒り等の様々な感情に出くわすことがあります。

私達は直接ケアや介護を行うわけではなく、ご本人、ご家族、サービス事業所の仲間のような存在なので、皆さんそれぞれのお気持ちや感情に少しでも寄り添えるよう、ちよっぴりでも笑顔になつてもらえたら、ニヤリと笑つてもらえたら、少しでも暖かなお気持ちになつてもらえたら。そんな思いを持ってお仕事をしています。介護保険サービス以外でも、何か気になるお話がありましたら、いつでもお声掛けください♪

静明館居宅介護支援事業所

はれのひ

管理者 川野 梨絵

院長のこぼれ話

明けましておめでとーございます。今年には私たちにとってどんな年になるでしょうか？

4年間のコロナの時代が明けて、世の中は以前の活動をとり戻しつつあります。思えばこの4年間、不自由な暮らしの中で、私たちはいろいろな工夫をして新しい文化を生み出してきました。

これまでではほとんど普及していなかったテレビ電話システムが、インターネットを介した既存のパソコンやスマホの機能に既に備わっていて、ちよっとした工夫でオンライン会議や大規模な学会、講演会・講習会、授業、面接、診療すらできることが分かり、活発に利用されました。「テレワーク」と称して「出勤しないのできる仕事」が意外と多いこともわかりました。一方で、どうしても集まらなければ出来ないことがあることもまた分かってきたように思います。宴会なんかは代表格かも。

「対面」が次々と復活していく中で、「オンライン」と「対面」がどの程度違うのか違わないのか、「対面」でなければ出来ないことは何なのか、一つずつ検証していくのもまた、興味ある作業なのではないでしょうか。

静明館診療所 院長 矢崎 一雄

